地域新聞みあき 第9号

地域新聞みあき製作委員会
令和元年5月1日　発行
連絡先 info.miaki@gmail.com

新時代「令和」に向けて

（文責）原田　浩明

通常総会にて区長挨拶

3月10日、平成最後の三秋地区通常総会が、三秋集会所にて行われました。区長の挨拶の後、大字三秋の活動報告及び会計報告等がなされ、最後に、区長以外の役員の改選が行われました。事前に決まっている各組長・副組長については、お名前を読み上げて報告。総代2名については、総会出席者による選挙により、上組より仙波さん、下組より日山さんが選ばれました。まさに、新時代「令和」に相応しいお二人であると思いました。

●新役員紹介●

今年度改選となりました、役員2名の方をご紹介致します。以下次の形式で記載。
①氏名・役職・年齢・趣味等　②新年度の抱負　③地域新聞みあきに期待すること或いは思うこと　④住民の皆さんへ一言

①仙波誠夫・専務総代・60歳　②これから、ますます高齢化が進み、災害対策において一番大切なものは、準備です。もう一つ大切なものが、横のつながりです。準備も絆も避難訓練によって養われますので、是非とも続けていきたいです。　③新聞を通じて、身近な事、広い視野からの情報を知ることができ、地域新聞としての役割を大いに果たしております。これからも皆さんからの色々な情報をお待ちして、より良い新聞にして頂きたいです。　④明神山トンネル工事も開始され、交通量も多くなりますので、今まで以上に安全に気を付けて下さい。各種イベント・説明会等のご出席のご協力をお願い致します。

①日山貞治・総代・55歳・石造物調査、海岸漂着物調査　②身近な地域資源の発見と活用を目指して、防災やイベントを通し、相互扶助や三秋のコミュニケーション向上の手助けになるよう、努力したいと思います。　③集落の埋もれた魅力（宝）を引き出す大切な情報誌です。自然・郷土料理などの「もの」、伝統技術・特技などの「ひと」、地域行事や祭りなどの「こと」について、様々な角度から記事を取り上げています。これらをつなげる「三秋の縁」として、今後も続けて欲しいです。　④地域の歴史は、先人達が安心して暮らせる環境を形成してきましたが、若い世代に、時代に即した形での地域を運営する一員として、自由に活動できる場を提供できるよう、ご協力をお願いします。また、少子化や移住により地域の子供達が減少しています。子供達を見守り、将来住んでみたいと思う「三秋」であって欲しいと思います。（参考文献『グリーンライフ』実教出版）

三秋の未来を考える（実践編）

（文責）原田　浩明

明神山に鎮座する2社について報告

左から仙波新専務総代、原田区長、日山新総代

3月8日、前回に引き続き、三秋の未来を考える会の第3回が行われ、初回から参加されている方をはじめ、今回初めて参加される方もおられ、大変多くの住民の方に、「集落活性化モデル構築事業」が浸透してるのだと感じました。会の冒頭、吉岡満さんより、明神山の山頂と中腹にそれぞれ鎮座している水之明神社の祠と石鎚神社の分社の歴史的な経緯や伝説、および現況などについて報告がありました。石鎚神社に関しては、先日登山隊が確認したところ、2基あるうちの1基は半壊状態であったとの説明がありました。修復工事等については、明神山の古道が復活した後に改めて検討していきたいとのことであった。また、端組（三秋地区の南側）から山頂に登るルートもあり、その途中に温泉が出るところもあったらしいとの紹介がありました。

活動内容について議論する皆さん

続いて、5つのテーマ（①明神山みあき古道復活プロジェクト、②自生レンコンを使った特産品の開発、③野菜家・空地の調査、⑤三秋大池の活用）について、これから取り組んでいく事業を参加者全員で話し合いました。その結果、次年度（19年度）の活動内容については、「明神山みあき古道プロジェクト」を核として活動することとし、まず、3月21日に、地元住民ならびに本事業関係者（県、ECPR等）のみで「明神山登山トライアル」を実施。また、4月に、吉岡満さんの田んぼに「種レンコン」を植え付け。静岡県の伊豆半島にあるマウンテンバイクツアー会社への先進地視察や建（レンコン）の花の観賞会なども、夏の時期を目途に開催。加えて、交流人口の拡大を図る目的で、三秋以外の方も対象に行う10月～11月上旬の「明神山登山イベント（仮称）」において、他の4つのプロジェクト（レンコンの収穫体験、三秋産のお弁当作り、駐車場等の確保、三秋大池周遊ルートの設定など）とも絡めて実施することになりました。

「地域新聞みあき」発表する

（文責）原田　浩明

田園回帰1%戦略中間報告会(2/11)

生涯学習推進大会(2/9)

2月9日「平成30年度伊予市生涯学習推進大会」、2月11日、『田園回帰1%戦略』中間報告会が、ウェルピア伊予にて開催され、当新聞のこれまでの活動内容等を発表しました。両日とも、市内外から沢山の方が来られており、会場の皆さんと共に、「地域づくりとは」「地域活性化とは」について、改めて考える日となりました。

はじめまして。大林組です。

（文責）（株）大林組　明神山トンネル工事事務所　事務係　先田

明神山トンネル工事事務所の皆さん

平素より三秋のみなさまには大変お世話になっております。松山自動車道明神山トンネル工事を施工しております（株）大林組明神山トンネル工事事務所の先田と申します。この度は編集委員会様のご好意により、当誌への記事掲載のお話を頂きましたので、恐縮ながらスペースを頂戴した次第です。

さて、私が三秋のみなさまとお会いするようになったのは、昨夏の終わり頃でした。市道三秋大ヶ市線改良や工事用地借地の説明の為、関係者宅を汗だくで駆け回っていたことを想い出します。実は私、初めての現場勤務ということもあり、どのようなご返答を頂くのだろうかと考え緊張と不安でいっぱいでした。（お会いした方には伝わっていたと思いますが…。）そのような中、若輩者の拙い説明を親身に聞いて頂き、「大変やね。頑張って。」と労いの声まで掛けてくださったみなさまに、心より感謝いたしております。

また、余談ですが、いつも柑橘のおすそ分けをありがとうございます。毎回たくさん頂くのですが、事務所内で奪い合うように食べている為、気が付けば1～2日で無くなっており、驚くばかりです。本格的な工事始動の準備に追われ、せわしなく過ごす毎日ですが、みなさまのお気遣いにより、事務所内の空気がホッと和んでいます。

ところで、この5月より、いよいよトンネル掘削が開始予定であり、工事が本格化いたします。つきましては、細心の注意を払い工事を進めて参りますが、何かお気づきの点がありましたら、どんな些細なことでも構いませんので当事務所までご連絡頂ければ幸いです。【事務所☎995－8405】

最後になりますが、今後ともご理解・ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

みあき歴史写真館

（文責）高井　健二

この写真は、35年ほど前の三秋地区運動会の写真です。この頃は、三秋地区だけで組内対抗の運動会が行われていました。知っている人は、懐かしいと思いますが、三秋地区だけで運動会が行われるなんて、今では考えられない光景です。三秋地区は、昔に比べて、人口がかなり少なくなり、更に、交流の機会が減ってしまいました。地域行事は、地元（三秋）を少しでも元気にするために、重要な役割を果たしています。皆さん忙しい毎日を過ごしているかと思いますが、積極的に行事に参加し、交流を深め、地元（三秋）を元気にしていきましょう。

コミニティー広場での運動会

編集後記

集落活性化モデル構築事業もいよいよ2年目を迎え、今秋には、明神山登山とレンコン掘り体験を一緒にしたイベントを開催する予定です。詳細が決まりましたら、随時お知らせいたしますので、ご協力の程、宜しくお願い致します。

（ひろ）

5月以降の主なイベント

6月
1日　みあきホタル観賞会
19時より　三秋集会所および二本橋周辺にて
※今年も豪華？景品付き
クイズorゲーム大会やるよ！

8月
17～18日　第12回わくわく体験キャンプ
12時より　西願寺にて

皆さんのお家に古い写真が眠っていませんか？昔の風景やお祭り等、三秋に関する昔の写真がございましたらご連絡ください。
また、その他の投稿・情報・写真も随時お待ちしております。★みあきの○○○★
私の絶景　etc・・・
お近くの当新聞編集委員もしくは、メールにてご連絡下さい。
おしらせ
info.miaki@gmail.com

私の宝物

吾子の歯が生え揃うころ万緑に

かずゆき

（撮影）谷本和之

息子誕生を記念して植えた木の葉が芽吹きました。今はまだまだ本人と同じくらい小さいですが、どんどん大きく育ってくれたらと願い育てています。

平成の思い出 ～平成の大渇水～

（文責）藤岡 健司

平成5年頃でしたでしょうか、8月の渇水で1ヶ月半24時間の完全断水。我が家でも、今まで長期の渇水経験が無く、水に切り替わり、同市の上水道普用ポリタンクや水工面。風呂に入れず、食器も洗えず、当然洗濯も出来ませんでした。簡易水道・組合水道から市の上水道に切り替えられ、今は安定した水道で生活が出来る様になりました。あの時期を思えば、水の大切さを思い、節水する心がけが成長した気がします。今回、水道復旧の新聞記事を入手しましたので、「三秋新聞」に記載いたしました。

待望の上水道完成
平成8年(1996年)5月2日(木曜日)
伊予市三秋地区
給水人口 138戸が恩恵

●平成八年（一九九六年）五月二日（木曜日）愛媛新聞より

待望の上水道完成　関係者ら通水式　百三十八戸が恩恵

一昨年の異常渇水時に一ヶ月半の完全断水に追い込まれた伊予市三秋地区に待望の上水道施設が完成し、一日、三秋集会所で通水式があった。住民は「水の苦労から解放される」と胸をなで下ろしている。

同地区はこれまで地下水が水源の簡易水道や組合水道で給水していたが、不足しがち。一昨年は水道が枯渇し、市が設備した四ヶ所の給水所だけが頼りで、不便を強いられた。

配水工事は昨年十二月から総工費一億九百万円かけて行われた。集会所内に中継加圧ポンプを設置、一日の最大給水量は二百十トン。百三十八戸が上水道に切り替わり、同市の上水道普及率は八十七％になった。

通水式には市関係者や住民など五十人が参加。増野市長、菊泰治議長、折井哲夫区長が中継ポンプの作動スイッチを押し、上水道に切り替えた。蛇口から勢いよく水がほとばしり、大きな拍手が起きていた。

折井区長は「渇水時には県内各地から支援を受けた。今後も限られた水資源を大切にしますとお礼を述べた。

下三秋の高井キクヱさん（六〇）は「今までは雨が降った翌日は水が濁っていた。蛇口から出るきれいな水を見てこれは長生きできると思った」と感激していた。

三秋から明神山へ登る！

（文責）中藤 彰悟

石鎚分社祠下にある鎖場

これまで明神山への登山に挑んだものの、登る道が分らなくなってしまっている上、大繁茂したシダ植物によって、道が完全に無くなっており、三秋側からは登る事が出来ないでいました。そこで我々は、中山側から一度登り、山頂から三秋へ降りてくる事で、新たに道を開拓する作戦にしました。

しかし、中山側からの道も何年も人が通った形跡も無く、雑草を切り払いながら登山でした。そうして、二度目の登頂の時に三秋側へ下りながら、道を付けて行きました。山頂近くは、山の稜線に沿うなだらかな道なのですが、三秋側へ下り始めると傾斜もきつく、所々はシダが大繁茂しており、草をかきわけ踏み固め、道を作りながら下りていきました。こうして何とか下りた所がちょうど、みみどの池の奥辺りでした。こうして下りてきた道を逆に辿って、ようやく三秋側から明神山山頂への道が出来たのですが、まっすぐ下りてきた道を逆に登る為、登るのの半分ぐらいが急勾配を登る直登ルートになってしまいました。加えて、所々は雑草とシダが多く、歩くのも大変な道のりで、とりあえずは、三秋からの明神山へは登れるようにはなりましたが、かなり厳しい登山ルートになってしまいました。

今後は三秋の皆がもっと気楽に登れるように、緩やかに登れるルートを開拓、整備していかなければならないなと思いました。この記事を読んでくださっている方で、昔の道をご存じの方がいらっしゃいましたら是非、みあき新聞の方へ一報下さい。よろしくお願い致します。

輝いてますよ、三秋

（文責）吉田 克浩

「移住と言われてもなぁ～」これは、所々は雑草とシダが多く、歩くのも大変な道のりで思ったことです。

皆さん何か感じませんか？私はずぐに三秋が頭に浮かびました。空気がきれいな山のふもと：：まさにここ三秋ですよね。投稿者は埼玉県在住の女性ですが、この方が稀少人物ではありません。これはほんの1例。今や都心には、このような人々がうじゃうじゃいるのです。その事をまず理解して欲しいと思い引用致しました。確かに、移住は生き方を根本から変える事象であり、容易い事ではありません。全員が実現する事は出来ないにしても、皆さんの想像以上に予備軍豊富な市場なのです。だから三秋なんて：と思わないで下さい。三秋には山や綺麗な空気のみならず、池も川もすぐ近くには輝く海もありますよね。私が伝えたいのは、今世間で移住の目的地となっている事は、三秋の「ような場所」だと言う事、そして予備軍で溢れていると言う事です。そのように秋がモデル地区に選出され、何度か議論を重ねているが、皆さんのお顔から読み取れるのは、この表情。人口を増やす為の移住は、夫婦で来れば2名、家族なら3～4名一気に増えるのだから美味しい手段ではある。しかし、どうすれば移住者がここに来るのだろうと考えたところで思考が停止する。「ここ何もないしなぁ～」「そんな人はいるのかなぁ～」と。そこで、次の文章を読んで欲しい。『将来、子どもたちが独立したら移住を考えています。まだ具体的な移住地は決まっていませんが、空気のきれいな山のふもとの町で、菜園や木工に挑戦したいです。今は情報収集に励み、移住を実現できるように頑張ります！』これは、全国で18万部発行されている宝島社の月刊誌「田舎暮らしの本」2019年1月号に掲載された読者からのお便りの一つです。

皆さん何か感じませんか？私はずぐに三秋が頭に浮かびました。空気がきれいな山のふもと：：まさにここ三秋ですよね。投稿者は埼玉県在住の女性ですが、この方が稀少人物ではありません。これはほんの1例。今や都心には、このような人々がうじゃうじゃいるのです。その事をまず理解して欲しいと思い引用致しました。確かに、移住は生き方を根本から変える事象であり、容易い事ではありません。全員が実現する事は出来ないにしても、皆さんの想像以上に予備軍豊富な市場なのです。だから三秋なんて：と思わないで下さい。三秋には山や綺麗な空気のみならず、池も川もすぐ近くには輝く海もありますよね。私が伝えたいのは、今世間で移住の目的地となっている事は、三秋の「ような場所」だと言う事、そして予備軍で溢れていると言う事です。そのように意識を切替えて貰えれば、あとは「ような場所」を「ここなんだ」と変化させていく事が出来ます。その為に皆さんが集まって、自分達の地域を学び、議論する。それを今ワークショップで実践しておられるのですよね。それともう一つ、地域の魅力は与える物ではなく、それは移住者自身が見つけるものだが時は、伊予署へ連絡して下さいよ。拍手。

ここまで読んで頂いて：：ところで「あんた誰？」と言われそうですね。申し遅れました、2年程前に京都市から郡中への移住者です。「何で郡中なの？」そうですよね、三秋は移住するまで知らなかったからです。そして「ちょっと」後ろ髪を：：ね。

伊予署の警察官から説明

振り込め詐欺にご用心

（文責）吉岡 満

三秋区長さんの配慮で、伊予署警察官による振り込め詐欺防止の勉強会が、1月18日、三秋集会所で行われました。詐欺は、巧みな電話による話術で、高齢者へ迫ってきます。これらの電話の時は、必ず家族か知人と相談すること、絶対に自分一人で対応・決断をしないこと、また、怪しい変だなあと思った時は、伊予署へ連絡して下さい。詐欺被害額は年々増えて、県内2億円（伊予署管内3600万円）皆さん、注意しましょう。

第13回伊予市駅伝

（文責）稲多 早苗

グラウンドから外のコースへ

2月3日（日）、時に小雨舞い散る寒空の下、伊予市駅伝大会が、しおさい公園で開催されました。小学生の部に川本浩輝くん、河野彩和さん、河野翔大くん、河野魁心くん、中学生の部に川本悠雅くん、稲多教経くん・慶次くん、一般の部（体育会）に助田健二さん、河野姫和さんが参加しました。チームのたすきを繋ぎていた味を再現してみました。ポイントは、細かく砕いたピーナッツのアクセント。人参以外はすべて三秋産で、何れは、全て三秋で獲れた食材で、お総菜やおやつを作っていきたいです。それを、今後のイベントや行事の際に、試食・販売して三秋を盛り上げていきたいと思っています。三秋住民の皆さんにも、アイデアや、食材提供など協力して頂けると大変うれしいです。皆さんの力で三秋を盛り上げていきましょう。宜しくお願いします。

ぐため、どの方も諦めず、一生懸命走りました。この日を迎えるために、たくさんの練習もしたと思います。本当にお疲れ様でした。

走り終えた三秋の中学生たち

走り終えた三秋の小学生たち

前ランナーからたすきリレー

おやこ交通安全教室

（文責）原田 夏子

ダミー人形による衝突実験

北山崎桜が散り始めた、4月12日、今年も北山崎小学校で、伊予署、交通安全教室が開催されました。今回は、ダミー人形を使って、実際に車にぶつかったら、どうなるかという実験をし、その後に、白バイを使ってブレーキをかけてから止まるまで、どのくらいかかるか、実験しました。ダミー人形を使った実験では、人形がひかれる瞬間、悲鳴が沸き、子供たちは恐怖を感じたことでしょう。これらの実験で、子供たちはいろいろ学んだことと思います。この交通安全教室の様子は、南海放送ラジオで生放送されました。ラジオをお聞きになった方々にも、交通安全について考えて頂けたと思います。これからも交通ルールを守って生活していきましょう。

みあきのピッカピカ一年生

（文責）原田 夏子

下三秋の高井歩夢くん

実際の横断歩道で実践

今年度の新一年生は、高井歩夢くん（7歳）です。小学校で楽しみにしていることは、新しい友達を作ったり、サッカーをすることだそうです。勉強では、国語を頑張ります。お昼の給食も楽しみにしています。夢に向かって頑張っていきましょう。皆さんよろしくお願いします。入学おめでとうございます。

お花畑の丘に

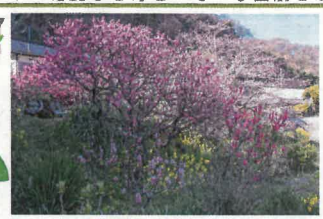
（文責）原田 夏子

坂井さん宅のクリスマスローズ

3月2日、今年はクリスマスローズの見頃の時期に再び、坂井タツ子さんのお宅に伺いました。みあき新聞で前回登場したときは、クリスマスローズの見頃は終わってしまっていたのですが、今回は、見事リベンジすることができて良かったです。2色のクリスマスローズが綺麗に咲いていました。坂井さん宅の裏山が、昨年の豪雨で崩れてしまったらしく、その斜面にたくさんの花を植えていました。将来は、三秋の名所として、「チョットしたお花畑の丘ができれば。」と仰っていました。私もそれは素晴らしいことだと思いました。お花見の後は、毎回恒例のカフェタイム、坂井さん特製手作りピザを頂きました。毎回とても美味しく、綺麗な花と美味しいピザで、話の花も咲かせることができました。お花畑の丘ができるのを楽しみに待っています。

桃の花、愛でる

（文責）原田 夏子

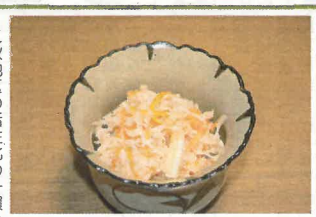

三浦さん宅の桃の木

坂井さん宅裏山にて河津桜バックに

4月の初旬、三浦恵美子さん家の桃の花を見に行きました。色鮮やかな花が咲いていて、とても綺麗でした。桃の木の後ろには、桜も咲いていてダブルで見ごたえがありました。皆さんも来年の春、観賞してみては如何でしょうか。

みあきの特産品試作

（文責）原田 夏子


三秋産ピーナッツなます

三秋地区の活性化の一環として、三秋産の野菜や果物などを使った特産品開発をスタート。今回は、三秋で獲れた大根を使った「ピーナッツなます」を試作。大根、人参、ピーナッツ、柚子を使って、私が昔から食べ